

BANDO

Breakthroughs for the future



イノベーションで先へ行く!走れ!未来へ
ON THE RUN!

第96期中間 株主通信

平成30年4月1日から平成30年9月30日まで

バンドー化学株式会社



BF-2の定量目標達成に向けて 「着実な一歩」を

代表取締役社長 **吉井満隆**

ご挨拶

株主の皆様には、日頃は格別のご高配に預かり、心からお礼申し上げます。第96期中間株主通信をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、米国は民間部門の自律的な景気回復局面にあり、欧州も緩やかな景気回復が持続いたしました。アジア地域の景気は総じて堅調であり、日本も緩やかな回復基調が持続いたしました。一方で、中国では景気の減速傾向もみられ、米国の通商・外交政策が世界経済に影響を与える懸念は引き続き存在しています。

当社グループの主要な市場である自動車分野におきましては、米国では、安定した個人消費に後押しされ、自動車生産台数が前年度を上回る状況で推移いたしました。アジア地域においては、自動車生産台数が堅調に推移し、中国および日本では、前年水準で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、中長期経営計

画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）の第2ステージの初年度として、新事業の創出、コア事業の拡大、ものづくりの深化と進化、個人と組織の働き方改革の4つの指針を掲げ、グローバルで「際立つ」サプライヤーを目指しての活動を開始いたしました。また、今後も拡大が期待できるコア事業の潜在力と早期事業化を目指す新事業の可能性の理解を深めていただくべく、9月に「バンドーテクノフェア2018」を開催いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高は482億1百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益は38億8百万円（前年同期比23.4%増）、経常利益は45億4千6百万円（前年同期比34.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は33億5千2百万円（前年同期比29.0%増）となりました。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

トップインタビュー

Q 指針「コア事業の拡大」の取り組みについて

A 当社グループは、中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）において、既存事業の強化に取り組んでおり、自動車やスクーター、電動射出成型機、自動ドア、工作機といった特定セグメントにおける伝動ベルトではTOPグループのサプライヤーとしての地位を確立しています。しかしながら、その他の伝動ベルトや軽搬送コンベヤベルトなどでは、まだまだ伸長の余地のあるセグメントもございます。このため、中長期経営計画

“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）の第2ステージ（BF-2）の指針の1つとして、「コア事業の拡大」を掲げ、STP分析に基づき伸長余地の大きい重点地域、重点業種に対して、市場ニーズにマッチした高機能化、省エネ、環境負荷低減仕様を開発・提供していく方針です。また、製品にサービスを付加するなど、お客様のバリューチェーンにおける利便性向上活動を推進し、お客様への付加価値を高めることで、市場地位トップを目指してまいります。



Q 指針「個人と組織の働き方改革」の取り組みについて

A BF-2では、上述の「コア事業の拡大」に加え、「新事業の創出」、「ものづくりの深化と進化」、「個人と組織の働き方改革」という4つの指針を掲げています。指針「個人と組織の働き方改革」は、他の3つの指針を推進し、下支えする位置づけです。当社は、経済産業省と東京証券取引所から「健康経営銘柄2018」に2年連続で選定されました。受賞は非常に名誉なことではあるだけ続けていきたいと考えていますが、それがゴール（目的）ではなく、働きやすい環境づくりを進めていくことが重要です。「個人と組織の働き方改革」の取り組みの基本は、従来よりも効率的で付加価値の高い仕事を行い、生産性を高めることです。これにより、収益力を向上させ、成長投資や従業員の豊かさの増大を図るという考えです。当取り組みを推進することによって、従業員が物心ともに明るく豊かになり、会社の業績も良くなるというプラスのスパイラルを根付かせて、当社グループの持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

自動車部品事業

売上高 20,919百万円 前年同期比 2.9%増

セグメント利益 1,672百万円 前年同期比 14.7%増

概況のポイント

- 国内では、自動車生産台数が前年水準で推移し、補機駆動用伝動ベルト(リプエース®など)および補機駆動用伝動システム製品(オートテンショナ、バンドースムースカップラー®など)の販売が増加。
- 海外では、中国において主要顧客の生産台数の増加により販売が増加。アジア地域において積極的な顧客開拓に注力したことにより、補機駆動用伝動ベルト、補機駆動用伝動システム製品およびスクーター用変速ベルトなどの販売が増加。

高性能エラストマー製品事業

売上高 7,828百万円 前年同期比 1.7%減

セグメント利益 443百万円 前年同期比 192.9%増

概況のポイント

- 機能フィルム製品については、建装材業界への販売強化により、建築資材用および工業資材用フィルムの販売は増加。また、事業転換の一環として新たな用途開拓を進めている自動車・二輪車用外装フィルムの販売も増加。
- 精密機能部品については、中国において主要顧客であるOA機器メーカーの生産台数は横ばいで推移しているものの、補給部品市場の低迷により、ブレードなどの販売が減少。
- セグメント利益は高付加価値製品への転換が進んだことにより、増加。

産業資材事業

売上高 18,002百万円 前年同期比 8.8%増

セグメント利益 1,039百万円 前年同期比 5.2%減

概況のポイント

- 伝動ベルトについては、国内では、民間設備投資需要が増加したことにより、産業機械用伝動ベルトの販売が増加。また、米国および中国における販売強化により農業機械用伝動ベルトや産業機械用伝動ベルトの販売が増加。
- 運搬ベルトについては、国内において、鉄鋼向けなどの案件が増加。
- セグメント利益は取引先への不具合対応により原価が増加した影響もあり、減少。

その他事業

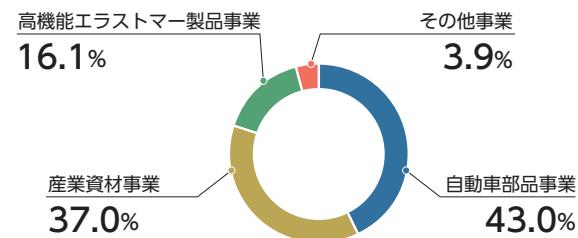
売上高 1,873百万円 前年同期比 48.6%増

セグメント利益 458百万円 前年同期比 257.5%増

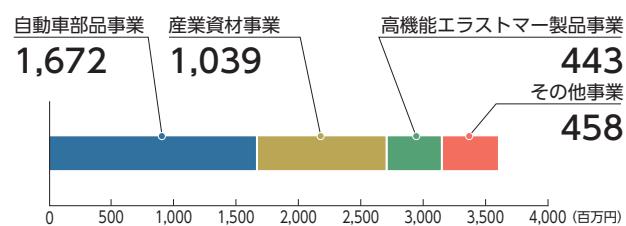
概況のポイント

- ロボット関連デバイス事業に加え、新事業の創出に取り組んでいる電子資材事業が収益に寄与。

当第2四半期累計のセグメント別売上高構成比



当第2四半期累計のセグメント利益



※上記の各セグメント別売上高およびセグメント利益は、セグメント間取引消去前の金額で記載しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (2018.9.30)	前期末 (2018.3.31)
資産の部		
現金及び預金	20,300	18,947
流動資産合計	56,437	53,767
有形固定資産	29,068	29,409
無形固定資産	1,492	1,563
投資その他資産	14,298	14,249
固定資産	44,859	45,222
資産合計	101,296	98,990
負債の部		
流動負債	24,828	25,043
固定負債	10,406	10,552
負債合計	35,234	35,595
純資産の部		
株主資本	64,606	61,897
純資産合計	66,062	63,394
負債純資産合計	101,296	98,990

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 (2018.4.1から 2018.9.30まで)	前第2四半期累計期間 (2017.4.1から 2017.9.30まで)
売上高	48,201	45,792
営業利益	3,808	3,085
経常利益	4,546	3,387
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,352	2,597

売上高



営業利益/営業利益率



経常利益/親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



自己資本比率



- バンドー神戸青少年科学館の
ネーミングライツ契約を更新



- 個人と組織の働き方改革を推進
「在宅勤務制度」を導入

- 「人とくるまのテクノロジー展2018名古屋」に出展
(ポートメッセなごや)



- バンドー神戸青少年科学館主催
夏の特別展
「世界に誇る日本のイノベーション」に出展



- 「アニュアルレポート
2018 (英語版)」を発行



- プライベート展示会
「バンドーテクノフェア2018」を開催

2018
4月

5月

6月

7月

8月

9月

- 「2018国際食品工業展
(FOOMA JAPAN2018)」に
出展 (東京ビッグサイト)



- 第22回 機械要素技術展
(M-Tech)」に出展
(東京ビッグサイト)



- 「CSR報告書2018」を発行



2018年
4月

個人と組織の働き方改革を推進
「在宅勤務制度」を導入

当社は、従業員の心身の健康がグループ発展の基盤になると考え、一人ひとりの健康増進活動を推進するとともに、ワークライフバランスの向上に取り組んでいます。2018年4月に働き方改革部を新設し、業務を効率化し仕事と生活における時間を有効活用できる仕組みづくりとその運用を推進しています。少子高齢化や夫婦共働き世帯の増加などの社会環境の変化を踏まえ、家族の育児や介護が必要な従業員や自身の傷病治療に直面した従業員の通勤負担を軽減し、仕事と生活の両立を支援することを目的として、「在宅勤務制度」を導入いたしました。

2018年
7月

バンドー神戸青少年科学館主催
夏の特別展「世界に誇る日本の
イノベーション」に出展

「イノベーションってなんだろう? 発明? 技術? ビジネスモデル? 社会に大きな影響を与え、私たちの暮らしを大きく変えたイノベーション。日本、神戸発のイノベーションを知り、その重要性を学びましょう!」というコンセプトのもと、「戦後日本のイノベーション100選のトップ10」や「兵庫発のイノベーション」、「神戸の地から生まれたイノベーション」を展示。当社は、もみすり作業の機械化に貢献した「もみすりロール」と、快適な自動車走行を支える「自動車エンジン補機駆動用伝動ベルト」の2点を出展し、もみすり作業の歴史やもみから白米になるまでの仕組み、補機駆動用伝動ベルトの歴史や役割を機械やパネルでわかりやすく紹介いたしました。



2018年
7月

「人とくるまのテクノロジー展
2018名古屋」に出展

今回の出展では、熱伝導性フィラーを垂直配向することで市場最高水準の熱伝導率を有する高熱伝導放熱シート「HEATEX®(ヒートエクス)」、無加圧でもベア銅に接合可能な銀ナノ粒子接合材「FlowMetal®(フローメタル)」、樹脂・曲面タッチパネルとの貼合信頼性と高温高湿下での長期的な高透明性を実現した車載向け超厚膜光学用透明粘着剤(OCA)「Free Crystal®(フリークリスタル)」などの電子資材分野における新製品を紹介いたしました。



2018年
8月

「CSR報告書2018」を発行

2017年度のバンドーグループのCSR活動の取り組み実績をまとめた「CSR報告書2018」(A4版、カラー 40ページ)を発行しました。当社グループは、CSR推進テーマとして「コンプライアンス・企業倫理」「環境」「品質」「人権・労働・安全」「社会貢献」「情報開示」の6つを定めて活動を行っています。本報告書では、当社グループのCSR活動について、環境報告と社会性報告の形にまとめて報告しています。



詳細は当社ホームページにてご覧いただけます。
(トップページwww.bandogrp.comから「CSRの取り組み」を選択し、「CSRレポートダウンロード」をクリックしてください。)

プライベート展示会「バンドーテクノフェア2018」

9月にプライベート展示会「バンドーテクノフェア2018」を大阪と東京で開催し、多くの来場者を集めました。2年ぶりの開催となる今回は、「イノベーションで先へ行く！走れ！未来へ ON THE RUN！」をテーマに、当社グループのコア事業の潜在力と新事業の可能性をアピールすべく新製品や開発製品をコア事業、新事業、未来につながる技術の3ゾーンに分けて展示しました。

- | | | |
|------|-----|--|
| 大阪会場 | 開催日 | 2018年9月6日(木)、7日(金) 10:00~17:00 |
| | 場所 | グランフロント大阪 北館B2F ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター |
| 東京会場 | 開催日 | 2018年9月13日(木)、14日(金) 10:00~17:00 |
| | 場所 | 秋葉原UDX AKIBA_SQUARE |



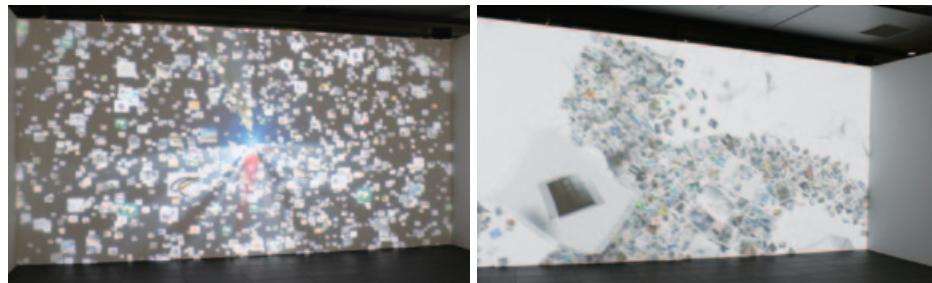
ロボットのデモンストレーション

伸縮性ひずみセンサ「C-STRETCH®(シーストレッチ)」を用いて、人の動きに合わせて動作するロボットのデモンストレーションを行いました。



バンドーヒストリー

創業以来の当社の歩みとともに、歴代社長をパネルで紹介しました。



コンセプトムービー

BF-2のコーポレートイメージとキャッチコピー「ON THE RUN！」に、新事業を象徴する画像を組み合わせたスピード感のある映像で、バンドーの新しい姿を表現しました。



コア事業ゾーン

自動車、産業機械、農業機械、精密機器などに組み込まれる伝動ベルトや埋め立て工事、食品加工・物流の現場で使用される搬送ベルトのほか、フィルム、ロボット関連製品などの新製品や開発製品を展示しました。



新事業ゾーン

オプトエレクトロニクス・パワーエレクトロニクス分野、健康・医療・介護分野に活用できる新製品や開発製品を展示しました。また、当社独自の分散技術を活用したユニークな特性を持つ新製品を紹介しました。



未来につながる技術ゾーン

材料と成型・加工技術や粒子創製技術、コンパージング技術やゴム材料技術、ポリウレタン材料技術など、未来につながる技術を紹介しました。



特別講演会

大阪と東京のそれぞれで講演会「タニタの経営論～世界初・家庭用体脂肪計、タニタ食堂 誕生秘話を交えて」(谷田大輔氏、大阪)、「キリンビール高知支店の奇跡」(田村潤氏、東京)も行いました。

株式の状況

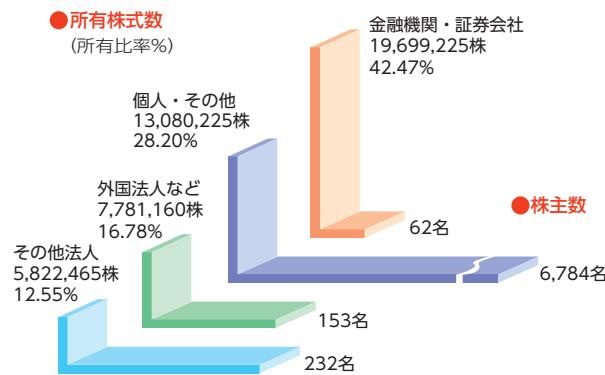
発行可能株式総数	187,000,000株
発行済株式の総数	47,213,536株 (自己株式830,461株を含む。)
株主数	7,232名

大株主

大株主名	当社への出資の状況	
	持株数	出資比率
バンドー共栄会	3,739千株	8.06%
株式会社三井住友銀行	2,313	4.98
三菱UFJ信託銀行株式会社	2,002	4.31
明治安田生命保険相互会社	2,000	4.31
株式会社みずほ銀行	1,800	3.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,649	3.55
株式会社三菱UFJ銀行	1,575	3.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,466	3.16
日本生命保険相互会社	1,174	2.53
GOVERNMENT OF NORWAY	967	2.08

(注) 1. 出資比率は、自己株式(830,461株)を控除して算出しております。
2. 上記の出資比率につきましては、小数第3位以下は切り捨てて表示しております。

株主構成



(注) 所有比率は、自己株式(830,461株)を控除して算出しております。

会社概要

社名	バンドー化学株式会社 Bando Chemical Industries, Ltd.
創業	1906年(明治39年)4月14日
設立	1937年(昭和12年)1月7日
本社事業所	神戸市中央区港島南町4丁目6番6号
ホームページアドレス	https://www.bandogrp.com

役員

取締役	
代表取締役社長	吉井 満 隆(社長執行役員)
取締役	柏田 真 司(専務執行役員)
取締役	染田 厚(常務執行役員)
取締役	畑 克 彦(常務執行役員)
取締役(監査等委員)	中村 恭 祐(常勤)
取締役(監査等委員)	松坂 隆 廣
取締役(監査等委員)	重松 崇 生
取締役(監査等委員)	清水 春 生

執行役員

常務執行役員	永瀬 貴 行
常務執行役員	万場 一 幸
常務執行役員	松尾 聡
執行役員	山口 勝 也
執行役員	岡田 勉
執行役員	本田 裕 治
執行役員	八木 尚 史
執行役員	野口 忠 彦

※取締役(監査等委員)松坂 隆廣氏、取締役(監査等委員)重松 崇氏、取締役(監査等委員)清水 春生氏は社外取締役であります。

事業所・グループ企業一覧 (平成30年9月30日現在)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 TEL (通話料無料) 0120-094-777
公告方法	電子公告により行う。 公告掲載URL https://www.bandogrp.com ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞および神戸新聞に掲載して行う。
上場取引所	東京 (第1部)

〈ご注意〉

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

BANDO



バンドーグループは
環境にやさしい事業を
推進しています

